

<幼稚園 環境>

ジンプナーな子をはぐくむための援助の工夫

～身近な素材にかかわる遊びを通して～

沖縄市立島袋幼稚園 教諭 前 堂 翠 美

I テーマ設定の理由

近年、テレビやインターネットの普及などにより、子どもを取り巻く環境が変化し、間接的な体験が増え、同年代の子どもたちと一緒に遊ぶ機会や戸外で自然と触れ合う直接的な体験が減少しているのではないと思われる。このような、幼児をめぐる環境を踏まえると、幼稚園では友達と一緒に見たり、聞いたり、触れたりするような直接的な体験が必要ではないかと考える。

幼稚園教育要領解説「環境」の領域には、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」と示されている。幼児は、自分を取り巻く「人・物・自然環境・社会環境」などの身近な環境とかかわり、様々な体験を重ね、発達していくと考えられる。そのことを踏まえ、幼児が身近な環境に、興味をもってかかわり、豊かな体験が得られるようにしていくこと、また、じっくり取り組む遊びの中で、自分なりに考え、感じることができるよう環境の構成を工夫していくことが大切だと思われる。

本学級の幼児は、園児数 10 名の少人数であることから、気の合う友達を見つけやすいという良さをもつ反面、限られた友達とのかかわりの中で、より遊びが楽しくなるような考えを出し合うことや自分なりに工夫して遊びを進めていくことが少ないと感じる。

これまでの自身の保育を振り返ると、幼児に対して「こうしてほしい」という思いや決められた結果に結び付けようとする教師の意図が強く、幼児の興味や関心を捉え、幼児が自分なりに考え、感じられるような援助の工夫が必要なのではないか、という課題が浮かぶ。

本研究のテーマにある「ジンプナーな子」とは、身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、発見したことや自分なりに考えたりしたことを遊びに取り入れようとする子と捉える。ジンプナーとは、沖縄の方言で、知識を活用する知恵のある人のことである。自分なりに考えたり、知識を活用したりすることは、生きる力の基礎を培うことに必要であり、課題解決につながると思われる。

本研究では、幼児の身近にある様々な素材を使って、幼児の好奇心を高め、自分なりにじっくり考えることや発見する楽しさを味わえるようにしたい。さらに、幼児同士をつなぎ、物の性質や仕組みの面白さ、不思議さに気付かせることで、身近な素材にかかわり、自分なりに探究する楽しさを味わえるようにしていく。そうすることで、身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、自分なりに考えたことや発見したことを遊びに取り入れようとするジンプナーな子をはぐくめるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す幼児像

身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、自分なりに考えたことや発見したことを遊びに取り入れようとするジンプナーな子。

III 研究目標

身近な素材にかかわる遊びを通して、幼児の好奇心を高め、自分なりに探究する態度をはぐくむための環境の構成や援助の工夫を探る。

IV 研究仮説

1 基本仮説

身近な素材にかかわる遊びを通して、幼児が自分なりに考え、試したり工夫したりすることができる環境の構成や援助の工夫をすることで、幼児の好奇心を高め、自分なりに探究する態度をはぐくむことができるであろう。

2 具体仮説

(1) 身近な素材に触れる場において、幼児の好奇心が高まるような環境の構成を工夫することで、自分なりに考え、発見することを楽しむようになり、身近な環境に興味をもってかかわるようになるであろう。

(2) 友達と一緒に試したり、工夫したりする遊びの場において、友達の考えに気付き、遊びを進める楽しさを味わえるような援助の工夫をすることで、物とのかかわりを楽しむ姿や自分なりに探究する態度をはぐくむことができるであろう。

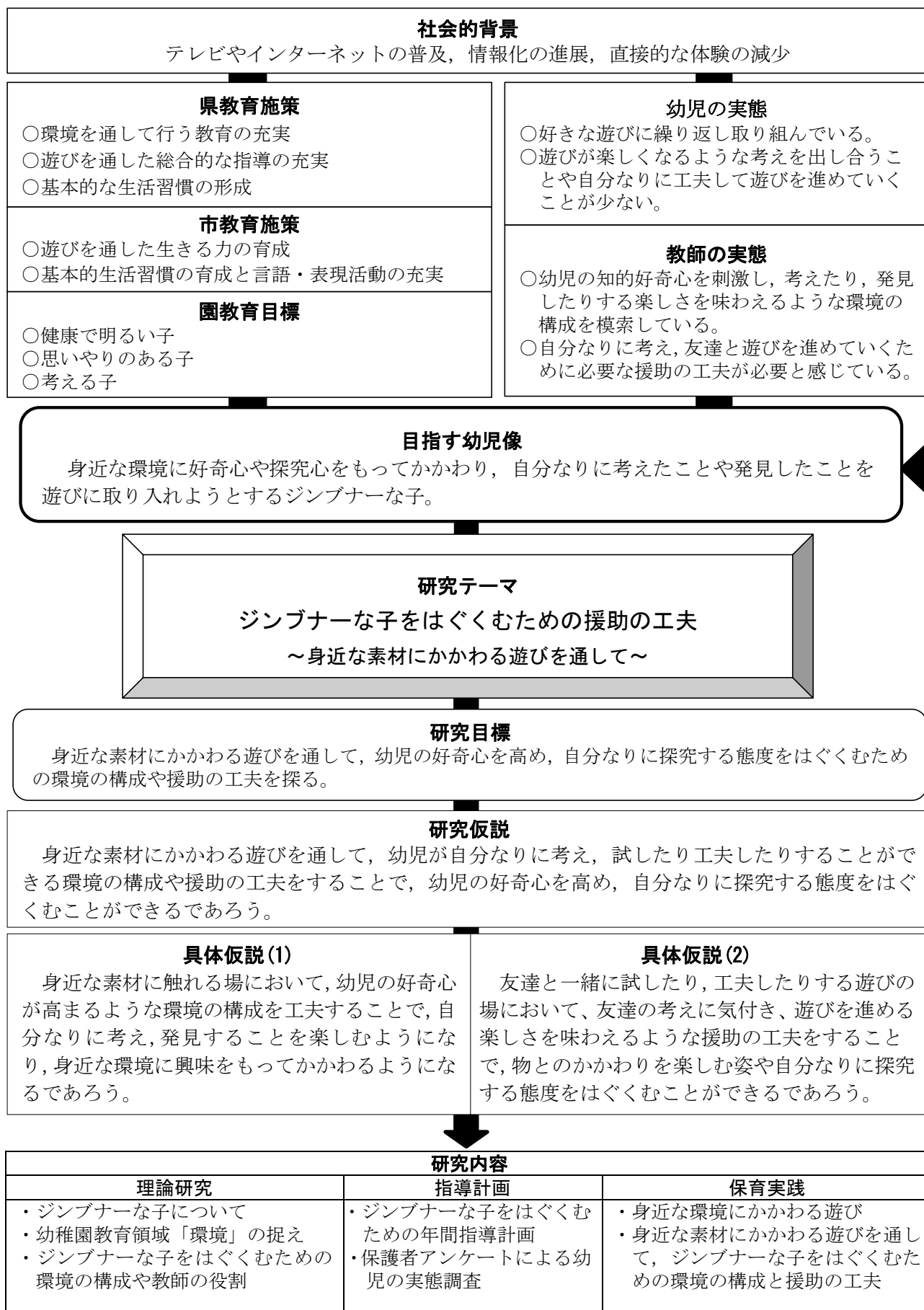
3 検証計画

(1) 事前アンケート、事後アンケート、幼児の実態把握などから幼児理解と調査分析を行う。

(2) 身近な素材にかかわる遊びを通して、ジブンナーな子をはぐくむための環境の構成や教師の援助の工夫について、理論研究、教材研究を進める。

(3) 研究仮説の検証及び、本研究の成果と課題を追及する。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 理論研究

(1) ジンブナーな子とは

沖縄の方言に「ジンブン」という言葉がある。ジンブンとは、知識や知恵という意味であり、ジンブナーとは、知識を活用する知恵のある人のことをいう。この言葉を幼児の姿にあてはめ「身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、自分なりに考えたことや発見したことを遊びに取り入れようとする子」をジンブナーな子として捉えた。

(2) 幼稚園教育 領域「環境」の捉え

領域＜環境＞ねらい (2)

身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。

本研究の目指す幼児像にある、「自分なりに考える」ということは、幼児が遊びや生活の中で、試したり、工夫したり確かめたりして、試行錯誤することや経験から得られた知識などを遊びや生活の中で活用していく姿と捉える。

神長(2009)は、幼稚園教育要領解説、領域環境の「ねらい(2)は、幼児が身近な環境とかかわる中で、何かを発見したりし、試したり確かめたりして環境とのかかわりを楽しんだり、その発見したことを別の所でも活用したりして、考えながら環境とかかわる態度を育てることを願っている。」と述べている。このことから、この領域のはぐくみたい力のひとつが、思考力の芽生えであると考ええる。このことを踏まえ、本研究では、幼児の好奇心を高められるよう、身近な素材や遊びの精選を行い、物や人とかかわりの中で、他者の考えに触れ、試行錯誤しながら、自分なりに探究する楽しさを味わえるようにしていく。

(3) 思考力の芽生えを培う

神長(2009)は、幼児期に思考力の芽生えを培うために必要なことを以下のように示している。

幼児期においては、環境を探索する中で、自分なりに試したり確かめたりして、新しい考えを生み出す喜びを味わうことが大切であり、こうした好奇心や探究心をもって周囲の環境とかかわる体験こそが思考力の芽生えを培うことにつながっていく。

幼稚園教育が心情・意欲・態度を育てることを目指していることから、思考力の芽生えとは、身近な環境に進んでかかわり、自分なりに考え、探究しようとする態度と捉える。思考力の芽生えを培うことは、本研究の目指す幼児像にせまるものであると考えられる。そのため、本研究においては、幼児の好奇心が高まるような環境の構成や自分なりに考え、探究しようとする態度をはぐくむための教師の援助を工夫した。

(4) 好奇心や探究心をはぐくむ環境

① 物的環境

幼稚園教育要領解説に、「幼児は、様々な物に囲まれて生活し、それらに触れたり、確かめたりしながら、その性質や仕組みなどを知っていく。」と示されている。田尻・無藤ら(2012)は、「環境の事物が子どもにとってどのような活動を誘発しやすいか、子どものどのような工夫を引き出し得るか、どのような発想を刺激するかの見通しをもつこと」と述べている。環境の構成について、以下のようにまとめる。

- ・子どもの活動を助ける環境
- ・幼児がやりたいと思い、専念できる活動を見つけたいけるような環境の構成
- ・興味や関心のある活動を選びとることのできる環境の構成
- ・活動の中で発達にとって大切な体験が豊かに得られるような環境の構成

上記のことを踏まえ、環境の構成を工夫することで、幼児の活動を誘発し、進んで遊びにかかわろうとする姿や物とかかわりの中で、不思議さや面白さを感じ、自分なりに探究しようとする態度につながると考えられることから、本研究の実践においては、田尻・無藤ら(2012)の子どもの活動を助ける環境を参考に、以下のような環境の構成を工夫した。

ア 幼児が見たり、触れたりして、変化に気付くことができるよう、「実験コーナー」を作ることと、遊びの続きがしやすいような環境の構成や「発見、発明コーナー」として子どもの発見

したことや作ったものを展示し、幼児の達成感を高めつつ、互いの刺激となるようにした。
イ 道具を使うことで遊びが発展することを見据え、幼児の身の回りに、これまでの遊びや生活の中で使っていた道具や用具、家庭にあるような道具などを幼児の遊びの空間に置いた。そうすることで、扱ってみようという気持ちを促すとともに、自分で選ぶことや遊びに必要な物を探す楽しさが味わえるようにした。

② 人的環境

幼稚園教育要領解説には、「幼稚園生活においては、何よりも教師との信頼関係を築くことが必要であり、それを基盤としながら様々なことを自分の力で行う充実感や満足感を味わうようにすることが大切である」と述べている。保育者の3つの役割について田尻・無藤ら（2012）は、下記のように示している。

- ・環境要素の一つとしての役割
- ・コーディネーターとしての役割
- ・子ども同士のかかわりを促す役割

このことを踏まえ、幼児が自分なりに探究しようとする態度を姿をはぐくむためには、教師は自身のもつ役割を意識し、意図的に保育を進めていく必要があると考える。

幼児は教師に、受け入れられ、褒められたり認められたりしながら、安心して自己を発揮していくと考えられるため、教師は幼児にとって、もっとも重要な人的環境の一つとして、存在していることを意識する。

幼稚園教育要領には、「幼稚園生活において、一人一人の幼児が発達に必要な体験を得られることが大切である。」と示している。このことから、幼児が豊かな体験を得られるよう、適切な環境を構成し、幼児同士をつなぐ援助をしていくことが必要だと考える。本研究では、幼児の興味や関心を捉え、幼児にとって必要だと思われる活動を精選した。ジンプナーな子をはぐくめるよう、身近な素材と子どもとのかかわりを方向づけ、幼児にとって親しみのある教材、教具を選び、幼児自身が探しだし、手に取りやすいように環境を構成することで、子どもたちの遊びの発展が促されるようにした。

また、幼稚園教育要領解説に、「遊びの深まりや仲間の存在は、幼児が物と多様なかかわりをすることを促す。」（一部抜粋）と示されていることから、友達と一緒に遊ぶことは、物の性質や仕組みに興味や関心を深め、新たな気付きや考えを生み出すことにつながると考えられることから幼児同士をつなぐ援助は重要であると考え。このため、遊びや生活の場において、友達と一緒に活動し、友達と遊ぶ楽しさを味わえるよう、一人一人の遊びの姿を捉え、幼児同士をつなぐ援助をした。

(5) 思考力の芽生えを培う体験

① 身近な素材にかかわる

幼児にとって身近な素材とは、お菓子の箱や容器、紙、ペットボトル、ビン、ひもなど、生活の中でかかわる機会があり、幼児同士でイメージを共有しやすいものであると考えられる。田尻・無藤ら（2012）は、「幼児は身近なさまざまなものに興味を示す。興味のあるものに対しては夢中で遊び、遊びの中で何かを発見する。そして、新しい遊びを作り出していくのである。」と述べており、さらに「幼児の発見や発明は身近な素材から生まれる。」と示している。このことから、身近な素材にかかわる遊びを取り入れることで、幼児は自分なりに考え、気付き、発見する楽しさを味わい、好奇心や探究心を高めることができると考える。

② 繰り返す行為

繰り返す行為は、幼児が身近な環境に進んでかかわり、夢中になって遊ぶ中で、試行錯誤し、自分なりに何かを得ようとしているあらわれと捉えられる。繰り返す行為について、田尻・無藤ら（2012）は、「幼児の発見・発明は同じことを繰り返すことから始まる。幼児は同じ操作を繰り返すことで徐々に習熟し、それを記憶に蓄積するのである。」と述べている。幼稚園教育が、幼児の後伸びする力を育てることを大切にしていることから、「～～ができた」「〇〇をした」という結果よりも、遊びを繰り返し楽しむ中で、幼児が何かを発見し、気付いたか、どのように取り組んでいたか、等の経験を積んでいく過程を大切にしたい保育を心がけた。

③ 物の性質を楽しむ

田尻・無藤ら（2012）は、「物を扱うとき、言葉と関連づけて物の性質を知ることが多い。重い・

軽い・熱い・冷たい・硬い・柔らかいなど言葉からそのものの性質をうかがい知ることができる。」と述べている。幼児は、実際に体験することから学ぶと考えられるため、幼児にとって、少し難しいと感じる言葉であっても、遊びや生活の中で教師は、物の性質をあらわす言葉を積極的に使うようにしていく。そうすることで、幼児が物の性質や仕組みに気付くことを助けられるようにし、物の性質を幼児なりに理解していくことにつながるようにした。

また、幼稚園教育要領解説には、音声の響きやリズムなどを踏まえた上で「言葉を覚えていく幼児期は、このような言葉の音をもつ楽しさや美しさに気付くようになる時期でもある。」と示されており、言葉は意味や内容を伝えるだけのものではないとしていることから、幼児が言葉の感覚を豊かにしていく上で、音声の響きやリズム、音としての楽しさや美しさを感じられるようにしていくことが大切だと思われる。遊びをより豊かに楽しくしていくために、物の性質をあらわす言葉だけではなく、様子をあらわす言葉も活動の中で積極的に使うことを意識していく必要がある。

幼稚園生活において、絵本や物語などの話や詩などの言葉を聞く中で、楽しい言葉や美しい言葉に出会うこともあると考えられるため、リズムや言葉の響きを楽しめるような絵本の精選をしていくことや幼児がその言葉を使い、遊びをより楽しいものにしていけるよう、言葉のもつ楽しさや面白さなどに気付けるような保育を心がけた。

2 指導計画

(1) 幼児の実態把握

① 保護者への実態調査アンケート

ア 調査目的

(ア) 事前アンケートでは、幼児の家庭での過ごし方や遊びの様子などから、幼児の興味や関心を捉え、身近な素材にかかわる遊びに関する実態を把握し、本研究の指導の方向性のために役立てる。

(イ) 事後アンケートでは、幼児の変容を分析し、仮説の検証及び研究の成果と課題をまとめる。

イ 調査方法

(ア) 調査対象

沖縄市立島袋幼稚園そら組 10 名の保護者

(イ) 調査日

事前アンケート 平成 27 年 11 月 18 日(水)

事後アンケート 平成 28 年 2 月 5 日(金)

(ウ) 回収率 100%

ウ 事前アンケート調査結果からの幼児の実態把握(記述式、複数回答あり)

問 降園後や休日、最も多いご家庭での過ごし方は何ですか？

室内遊び 50%

戸外遊び(自然と触れ合う遊びを含む) 37%

学童 13%

問 お子さんはどんなことに興味をもっていますか？

昆虫や生き物 34%

携帯電話やゲーム、動画視聴など 17%

勉強をすること 9%

戸外で体を動かすこと 8%

絵本の読み聞かせや年下の子のお世話をすること 8%

近所の子と遊ぶこと 8%

料理やお菓子作り 8%

化粧やかわいい洋服選び 8%

【考察】

家庭での過ごし方は、室内遊びがもっとも多く、興味をもっていることに目を向けてみると、間接的な体験が多く、直接的な体験が少ないと感じる。

自然に触れる遊びや自分で工夫して遊ぶことは、幼児期に必要な体験であることから、自分なりに考え、試したり工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わえるような環境の構成や援助の工夫が必要である。

② 年間指導計画

ジンプナーな子をはぐくむために必要な、一年間の幼児の育ちを見通したねらい、環境の構成、教師の援助、身近な環境にかかわる遊びを取り入れた年間指導計画を作成した。

	4月～6月（Ⅰ期）	7月～11月（Ⅱ期）	12月～3月（Ⅲ期）
◎ 幼児の姿	◎進級して張り切っている子、初めての集団生活や新しい環境に緊張し、戸惑いを見せる子もいる。 ◎戸外遊びでは、固定遊具や砂遊び、園庭の植物や虫に興味を示し、かかわろうとする。 ◎色水遊びや砂遊びなど、感触を楽しみながら、いろいろな遊びを展開する。 ◎気の合う友達と遊ぶことを楽しみ、互いに自分の思いを出し、意見がぶつかることもある。 ◎プール遊びや水遊びを友達と楽しむ姿が見られる。	◎幼虫の生長に関心をもち、観察や世話をする姿が見られる。 ◎プール遊びや水遊びを楽しむ中で、遊びを楽しくするものを試したり、工夫したりしながら作る姿が見られる。 ◎虫捕りや遊びに必要な物に気付き、身近な素材を使って工夫することや友達と考えを出し合い、イメージを膨らませて遊ぶことを楽しむ。 ◎夏休みに経験した出来事をいろいろな方法で表現することを楽しむ。 ◎共通の目的（交流会や運動会など）に向かって、積極的に取り組み、協力しようとする姿が見られる。	◎友達と協力しながら、遊びを進めている様子が見られる。 ◎友達と一緒に、試すことや工夫することを楽しむ姿が見られる。 ◎お正月遊びを通して、文字や数量に興味や関心をもつようになる。 ◎就学への期待と不安をもつ姿が見られる。 ◎自分なりに目標をもって取り組むことや挑戦して最後まで頑張る姿が見られる。 ◎就学への期待が高まり、自信をもって生活している姿が見られる。
◇ ねらい	◇いろいろな素材や用具に触れ、友達や教師と一緒に遊びを楽しむ。 ◇身近な自然事象に興味をもつ。 ◇砂や水の感触を楽しみながら、いろいろな遊びを展開する。 ◇朝顔や野菜の世話をし、生長の過程に興味をもち、収穫物を味わう。	◇身近な自然や素材に触れ、興味をもってかかわることを楽しむ。 ◇夏の自然や事象に興味や関心をもち、取り入れて遊ぶ。 ◇友達と遊びを進める楽しさを味わう。 ◇共通の目的に向かい、協力して取り組む楽しさを味わう。	◇友達と協力しながら遊びを進め、やり遂げる充実感を味わう。 ◇自分の力を十分に発揮し、自信をもつ。 ◇遊びや生活に見通しをもってかわり、意欲的に取り組む。 ◇年末年始の行事や生活に興味や関心をもつ。
○ 指導内容	○園庭の草花や虫に興味を示し、見ることや触れることを楽しむ。 ○色水遊びや染め紙遊びを楽しむ。 ○朝顔や夏野菜、カズラなどの生長に興味をもち、水やりや草抜きなどの世話をする。 ○やりたい遊びにじっくり取り組む。 ○気の合う友達と遊ぶことを楽しむ。 ○身近な素材を使って製作することを楽しむ。 ○この時期の自然事象に興味をもつ。	○水を使った遊びを楽しむ。 ○気の合う友達と遊びを進める。 ○共通の目的に向かって皆で協力する。 ○友達や教師とイメージを膨らませ、考えを出し合いながら遊びを進める。 ○落ち葉や種などの自然物を遊びの中に取り入れる。 ○不思議に思ったことを図鑑や絵本などで調べる。 ○生き物の飼育やかかわり方を知る。	○協力しながら遊びを進め、やり遂げる充実感や達成感を味わい、自信をもつ。 ○教師自身が、身の回りの自然に関心をもち、幼児の興味を引き出せるようにする。 ○遊びに必要な道具や用具を選び、身近な素材を使って、工夫して遊ぶ楽しさを味わう。 ○正月遊びを楽しむ。
☆ 教師の援助と環境構成	☆幼児の不安な気持ちに寄り添い、遊びに誘い、好きな遊びを見つけて友達や教師と楽しく遊べるよう、親しみのある遊具を用意するなどして、落ち着いて遊べるようにする。 ☆やりたい遊びにじっくり取り組めるよう、素材や道具を準備する。 ☆栽培物の世話を通して、生長や変化に気付けるようにする。 ☆自然事象に関心をもってかかわれるよう、園庭の自然環境や室内の環境を設定する。 ☆気付いたことや発見したことが深まるよう、試したり調べたりできる環境を整える。 ☆土や砂、水に触れて遊ぶ中で、その物の持つ特性や仕組みに気付けるようにし、面白さを味わえるようにする。 ☆水を使った遊びを通して、水の危険性や使い方、大切さを知らせていく。	☆遊びを楽しくするために必要な物に気付かせ、ときには一緒に作るなどして遊びへの意欲を高めていく。また、製作物を他児の目に触れられるよう、環境の構成をし、友達の考えに触れ、遊びの刺激となるようにする。 ☆遊びや生活、当番活動を通して、決まりの必要性に気付かせていく。 ☆園庭遊びや園外行事の時には、自然物に気付かせ、子どもと一緒に楽しみながら集め、自然物を使った遊びが楽しめるようにする。 ☆教師は、幼児一人一人が取り組んでいる姿を捉え、認め、励ますなどして挑戦意欲が高まるようにする。 ☆学級で取り組む活動に意欲的に参加できるようにする。 ☆植物や生き物に触れる中で、いのちの尊さや大切さに気付かせながら、物を大切にしようとする態度をはぐくんでいく。	☆日々の遊びの様子から、幼児の興味や関心を捉え、思いや考え、発想などを取り入れて遊びを進めていくようにする。☆文字や数字などを遊びや生活、活動の中に取り入れていく。 ☆栽培物の生長を喜び、収穫する楽しさを味わえるよう、収穫の仕方などを学級で話し合う。 ☆挑戦し、頑張っている姿を捉え、学級で褒めたり、認めたりして自信となるようにする。 ☆教師自身が、身の回りの自然に関心をもち、幼児の興味を引き出せるようにする。 ☆遊びや生活の中で、水の冷たさや服装などから、季節が変化していることに気付くようにする。 ☆就学への不安を受け止めながら、小学校と交流を深め、あこがれや期待をもてるようにする。

VII 研究実践

1 公開検証保育指導案

日時 平成27年12月8日(火)

9時～10時

沖縄市立 島袋幼稚園 そら組

男児6名 女児4名 計10名

保育者 前堂 翠美

(1) 活動名

「身近な素材で紙を作ろう。」

(2) 活動の目標

- ① 身近な素材に触れる体験を通して、物の性質に気付いたり、発見したりすることで不思議さや面白さを感じ、興味や関心をもって遊ぶ楽しさを味わう。
- ② 友達と一緒に遊ぶ中で、考えたり工夫したりして、物の性質や仕組みに関心を深め、自分なりに探究する態度をはぐくむ。

(3) 教材観

幼児にとって身近な素材とは、お菓子の箱や容器、紙、ペットボトル、ビン、ひもなど、生活の中にかかわる機会があり、幼児同士でイメージを共有しやすいものであると考える。身近な素材に繰り返しかかわることで、物のもつ特性や面白さに気付かせていくことで、幼児の好奇心を高め、自分なりにじっくり考えることや発見する楽しさを味わえるであろう。

また、友達と一緒に遊ぶ中で、友達の考えに刺激を受け、新しい考えを生み出す楽しさや物とのかかわりを楽しめるようになると考えられる。このことから、身近な素材にかかわる遊びが、幼児の好奇心を高め、自分なりに探究しようとする態度をはぐくむことのできる教材と考え、本活動を設定した。

(4) 幼児観

学級の実態として、園児数10名の少人数であることから、気の合う友達を見つけやすいという良さをもつ反面、限られた友達とのかかわりの中で、より遊びが楽しくなるような考えを出し合うことが少ない場面が見られる。また、ままごとやブロック遊びなどで繰り返し遊ぶ姿が見られるが、自分なりに工夫して遊びを進めていくことが少ないと感じる。学級活動においては、興味をもてないと思いのままに行動し、活動から抜けてしまう子の姿も見られる。そこで、身近な素材にかかわる遊びを通して、幼児の知的好奇心を刺激し、自分なりに考えたり、発見したりして幼児が身近な環境に興味をもってかかわれるようにしたい。そして一人で、じっくり取り組んだり、友達とのかかわりの中で、互いの考えに触れたりして、物の性質や仕組みに気づき、物とかかわる楽しさを感じさせたい。

(5) 指導観

身近な環境に触れる遊びを精選し、身近な素材や自然環境にかかわる中で、自分なりにじっくり考えたり、発見したりして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

そして、遊びや生活の中で、幼児が興味をもって取り組んだことや心を動かされたことを捉え、自分なりに気づき、発見したことなどを表現できる場や友達の考えに気付けるような環境の構成を工夫していく。幼児が発見したことを表現し、受け止められたり、友達の考えに触れたりすることで、幼児の自信となるようにし、新たな遊びの刺激となるようにしたい。さらに、遊びに発展しそうな道具や用具を用意し、幼児の発見を促す環境の構成と幼児の考えを引き出し、幼児同士をつなぐ援助の工夫をすることで、身近な素材にかかわる面白さや友達と遊びを進める充実感を感じさせたい。

2 検証計画

回	月 日	○ねらい	◇活動	☆教師の視点
1	11月26日(木)	○身近な素材に触れ、不思議さや面白さに気付き、遊ぶ楽しさを味わう。	◇素材に触れる遊びを楽しむ。	☆一人一人の気付きや表現する姿を認め、学級全体への遊びへとつなげていく。
2	11月27日(金)	○身近な自然にかかわり、季節の変化に気付いたり、遊びに取り入れたりすることを楽しむ。	◇季節の変わり目に気付く。 ◇押し花遊び	☆気温や服装の変化により、季節が変わってきていることに気付かせていく。 ☆植物にかかわり、遊びに取り入れる楽しさを感じられるようにする。
3	11月30日(月)	○身近な素材に触れ、その性質に興味や関心をもつ。	◇牛乳パックをしっかりと洗おう。	☆様々な素材を用意し、素材の仕組みに気付けるような環境を構成し、興味をもって取り組めるようにしていく。
4	12月1日(火)	○身近な素材の性質や仕組みに気付いたり発見したりする。	◇水につけた牛乳パックを触ったり、破いたりして感触を確かめる。	☆気付いた事を発表し、共有できるようにしていく。
5	12月2日(水)	○気付いたことや考えたことを取り入れて遊ぶ。	◇身近な素材の感触を確かめ、物の性質や仕組みに気付く。	☆その子なりの表現の仕方を受け止め、一人一人の良さを多面的に捉えられるようにする。 ☆片付けや用意の仕方などを子どもたちと考え、一緒に環境を整えていく。
6	12月3日(木)	○遊びに必要な道具を探し、自分なりに試したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。	◇お湯や水につけてみよう。	☆教師も幼児と一緒に遊び、考え、気付いたことや工夫したことなどを友達や教師に認められていく中で、自信をもって行動できるようにしていく。
7	12月4日(金)	○友達の考えを聞いたり、試したり、工夫したりしながら、遊ぶことを楽しむ。	◇いろいろな素材で試してみよう。 ◇すくったり、形を作ったりして楽しむ。	☆自分なりに表現したことや次の遊びの時にはどんなことをしていきたいかなどを話し、次の活動への意欲をもたせる。
8	12月7日(月)	○友達と考えを出し合い、協力して取り組む楽しさを味わう。	◇いろいろな道具や用具を使って、試してみよう。	☆遊びを楽しく進めていくために、必要な道具や用具に気付かせ、じっくり取り組めるようにしていく。
9 公開 保育	12月8日(火)	○友達と考えを出し合い、自分なりに考え、試したり、工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わう。	◇身近な素材を使って紙を作ろう。	☆工夫している所などを学級全体に気付かせ、教師も遊びに加わり、必要に応じて考えを引き出すなどして、遊びの刺激となるようにする。
10	12月10日(木)	○友達と協力して、製作に取り組む。	◇みんなでウェルカムボードを作ろう。	☆みんなで協力して取り組む楽しさが味わえるようにする。

3 活動の概要

【第1時】

◎幼児の姿 ☆幼児の発見	○教師の援助 ◇教師の見取り
◎新聞紙遊びを楽しむ。 ☆方向によって、気持ちよく切れる場所やちぎりにくい方向に気付く。 「線（折り目）の入ってるところは切れやすいよ」 「縦にすると切れるよ」 「こっち（横）から切ったら硬いよ」 「切りにくい」と話す姿があった。 ☆割いた新聞紙を使って、丸や花の形にして、細長い紙が形に変化することに気付き、楽しむ。 ◎新聞紙をつなぎ合わせ、一つの大きな紙にした。 「船みたい」という幼児の言葉があがり、全員で乗り込む姿が見られた。イメージを膨らませ、床を指さして「これは海だね」「(床が茶色っぽいので) 沼じゃない？」と話し、楽しむ姿が見られる。 教師がワニに変身すると、「島に逃げよう」と言い、ままごとコーナーに移った。新聞紙が破れると、「船が沈む！」と話し、破れたところをテープでつなぎ合わせ、船の修理をし、再び乗り込んでいた。 「船で弁当を食べたい」という子もあり、新聞紙の船の上で、弁当を食べる子どもの姿も見られた。	○一人一人の気付きを受け止め、安心して遊びに取り組めるようにする。 ○遊びの刺激となるよう、幼児の気付いたことを黒板に書いたり、友達の取り組んでいることを知らせたりしていく。 ◇友達の言葉を聞き、自分の意見を言ったり、遊ぶ姿を見て、やってみたいと意欲を見せたりする姿も見られた。 ○一人一人の気付きに共感し、一緒に遊びながら、発見することを楽しめるようにしていく。 ○遊びの様子を捉えながら、個々で取り組む遊びから学級全体で取り組む遊びへと移行させ、みんなで遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ◇友達の話を聞いて、想像を膨らませ、イメージを共有して遊ぶ姿が見られた。また、新聞紙が破れたときには、船の修理をし、自分なりに考えて遊びを進めようとする姿が見られた。

【第2時】

◎季節の変わり目を感じている子の言葉。 ☆「今日、ちょっと寒かったから、長袖のシャツを着てきたよ。」 「朝、歯を磨くとき、お水触ったら冷たかった。」 「葉っぱが少なくなってきた。」 ◎押し花遊びをした幼児の姿の発表を聞き、押し花遊びに取り組む。 ◎花だけでなく、サンニンの葉を押し花に加える子もいた。	○前日より肌寒い日だったことから、園庭の様子や温度、服装などが今までと変わっていることに気付かせる。 ○押し花遊びをした幼児を学級で紹介し、全体の遊びへと広げていく。 ○植物で遊ぶ楽しさだけでなく、命があることに気付かせ、大切に扱う姿につなげていく。
--	--

【第3時】

◎牛乳給食後、牛乳パックを水ですすぎ、においが残っていないかなどを友達と確認しあっている。 ◎すすぐための水を大切に使うために、どうすればいいか考えながら取り組んでいる。 ☆タライに張った水で、繰り返しすすぐことを楽しみながら、「実験みたいだね」という声が出てきた。	○水に浸すことで、牛乳パックの硬さや柔らかさの変化があることに気付かせていく。 ○すすぐときにも、水の大切さに気付かせていく。 ○幼児のつぶやきに共感し、周りにいる子どもたちに、幼児の言葉を知らせる。
--	---

【第4時】

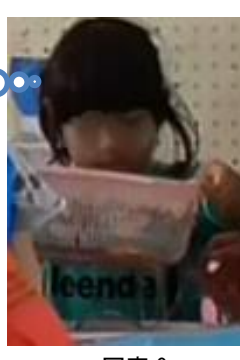
◎幼児の姿	☆幼児の発見	○教師の援助◇教師の見取り
◎水につけた牛乳パックを破いたり剥がしたりする。 ☆前回と比べて感触が変わっていることに気付く。 ☆牛乳パックが3枚の紙でできていることに気付く。  写真1	ザラザラの紙とツルツルの紙がある  写真2 昨日よりやわらかいよ  写真3	○教師の援助◇教師の見取り ○一人一人の気付いたことを周りの友達に伝え、身近な素材への関心が高まるようにした。 ◇感触の違う3枚の紙で牛乳パックが作られていることに気付く姿が見られた。

【第5時】

◎絵本の読み聞かせをする。 ◎前回の遊びを振り返る。 発見したことを話す中で、飼育していたカエルが死んだことを話す子がいた。そこから、カエルへの思いなどを話す子や身近にあった出来事を話す子の姿が見られた。 「生き物の命」という話から、「物にも命がある。」という考えが浮かび、それぞれの思いを話していた。 ☆「生き物の命と同じように、戻ってこれないものもある。」 ☆「生き物じゃない物、生きてないものも、命がちゃんとある。」 ◎物の命をつなげる方法を自分なりに考え、話している。 ☆リサイクルをしている。最後まで大切に使う。イトコにあげる。などの言葉が出てきた。 ◎画用紙の切れ端を水につけてみる。 ☆素材によって、水につけるとすぐに柔らかくなるものとそうでないものがあることに気付く子もいた。  写真4 画用紙は2枚の紙でできているのかな？ 3枚かもしれないよ	○「やぎのはかせのだいはつめい」の絵本の読み聞かせをした。 ○一人一人の思いを引きだし、幼児なりの思いや発見を受け止め、物の大切さやつながりについて気付けるようにする。 ◇幼児なりに考えた「命をつなげる方法」から、幼児が身の回りの環境に、興味をもっている姿がわかり、以前よりも関心を深められたのではないかと考える。 ○いろいろな素材を自分で選び、興味をもたせ、じっくりかかわったり、友達と楽しみながら、かかわれるようにする。
---	--

【第6時～8時】

◎遊びに必要な道具を探し、自分なりに試したり工夫したりして遊ぶ。 ☆空き容器を使って、画用紙の切れ端と水を分ける方法を発見した。  写真5 ◎友達が空き容器に画用紙の切れ端を水につけている様子を見て一緒に遊ぶ。  写真6	○身近な素材を使うことで、遊びが楽しくなりそうな時には、その存在に気付かせ、遊びに取り入れられるようにする。 ◇友達の考えに刺激を受け、自分もやってみたいという意欲が高まり、自分の遊びに取り入れようとする姿もみられた。 ◇身近な素材に触れる中で、ぬめりや臭いが出てきたことに気付く姿もある。
---	--

◎幼児の姿 ☆幼児の発見	○教師の援助◇教師の見取り
◎ 身近にある道具や用具を使って素材とかかわる。 ☆ままごとコーナーにある泡立て器を使い、混ぜたり、牛乳パックを細かくできないかと考え、玩具の包丁を持ってきたりしていた。 ☆濡れた紙がタライにくっつくことに気付く。 ☆網じゃくしが、固形だけをすくうことができることを知る。 包丁で切ってみよう この、泡立て器、お家にもあるよ 網じゃくしは牛乳パックだけをとることができるよ  写真 7	○幼児の身近にある道具や用具とかかわる中で、特性や仕組みに気付かせ、道具を使って遊ぶ楽しさが感じられるようにする。 ◇遊びに使っている道具が家庭にもあることに気付く言葉が出てきた。 ◇道具のもつ特性に気付き、それを使って、身近な素材にかかわる楽しさを感じている姿が見られた。 ◇身近な素材を破いたり、細かくちぎったりすることを楽しむ姿が見られる。
☆水につかった牛乳パックや画用紙の切れ端が入ったザルを持ち上げると、素材から細かい繊維のようなものが出てきたことに気付き、手や網じゃくしなどで、すくって確かめる姿が見られる。  写真 8 あれ？ ふわふわしたものがある  写真 9	◇友達が取り組んでいる遊びに気付かせることで、自分もやってみたいという意欲が見られた。 ○幼児が発見していることや不思議に感じている姿を捉え、周りの友達にも知らせ、一緒に遊べるようにする。
☆ザルで素材をすくい、指で触って感触を確かめたり、布で水けを切り、細かい繊維同士がくっついたことに気付いたりする姿が見られる。 ☆ふわふわの水気を切るときに、布でギュッと押すため「押し花みたい。これは紙だから押し紙だね。」という言葉が出た。また、押し紙を乾かせる場所を探し、窓ガラスに貼りつける姿も見られる。 そーっと貼ろうね 陽が当たるから乾きやすいよ  写真 10	◇これまでに経験した押し花遊びや身近な素材に触れる中で気付いた出来事を遊びに取り入れる姿が見られ、遊びの連続性を感じた。 ◇遊びに必要な空き容器を探し、自分なりに試したり工夫したりして身近な素材にかかわる子どもの姿が見られた。 ○一人一人の発想やイメージを捉え、幼児のやりたいことが実現できるよう、気付きを促す援助をした。

4 本時の指導

本 時			12月8日(火)
幼児の姿	- 友達と一緒に新聞紙を使って破ったり、つなげたりして遊ぶことを楽しんでいる。 - 牛乳パックや色画用紙などを水につけ、色が出ることや細かい素材が出ていることに気づき、すくったり、乾かしたりしてかかわる姿がみられる。 - 友達の遊ぶ様子を見て、興味をもち、遊びにかかわる姿がみられる。		
ねらい	友達と考えを出し合い、自分なりに考え、工夫しながら遊ぶ楽しさを味わう。	内 容	- 友達と話し合ったり、自分なりに考えたりして工夫して遊ぶ。 - 遊びに必要なものを考えたり、用意したりして遊びをすすめていくことを楽しむ。
活動仮説	身近な素材を使って遊ぶ場において、友達と一緒に遊び、考えたり工夫したりして、関心を深めていくことで、物とかかわって遊ぶ楽しさが味わえるようになるだろう。		
時間	◎予想される幼児の活動	○教師の援助	
9：00	◎昨日の遊びを振り返る。	○昨日の遊びを振り返り、工夫してみたいことを話し、今日の遊びを楽しめるようにする。	
9：10	◎紙作りを楽しむ。 ・自分なりに考え、試したり工夫したりして、遊びにかかわることを楽しむ。 ・友達の取り組む姿を見たり、工夫している所を見たりして、自分の遊びの中に取り入れていく。 ・発見したことや気付いたことなどを話し合い、友達と遊びの楽しさを共有する。	○遊びに必要な道具や用具に気付かせ、自分で行動できるようにしていく。 ○自分なりに楽しんでいる姿を認め、自信をもって取り組めるようにしていく。 ○友達のやっていることに気付いたり、協力したりして、遊びが進められるようにしていく。 ○友達の工夫している点に気付かせたり、良さを知らせたりして、楽しみながら遊びを展開できるようにする。 ○自分なりに気付いたことや面白そうに取り組んでいたことなどを捉え、自分の良さや友達の良さに気付けるよう話し合い、共有していく。 ○必要に応じて、道具や用具、水の使い方などを知らせ、友達と楽しく遊びを進められるようにしていく。	
9：50	◎遊びの振り返りをする。 ・自分の思いを伝えたり、工夫した点などを話したりする。 ・友達の話を聞き、共感したり、発想に気付いたりする。	○一人一人の発見したことや工夫したことなどを受け止め、遊びの意欲につながるようにする。	
10：00	◎片付け	○遊びの場を子どもたちと一緒に整えることで、明日の遊びへの期待がもてるようにする。	
評価	友達と考えを出し合い、自分なりに考えたり、工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わうことができたか。		

5 公開検証保育の様子

【第9時】

前日の遊びの様子

ペットボトルに牛乳パックと水を入れ、振ることを楽しんでいた子が牛乳パックから、白い糸のようなもの（繊維）が出ていたことから「ふわふわがでてきた」と声が上がり、遊びの面白さを感じている姿が見られた。

◎幼児の姿

☆幼児の発見

◇教師の援助◇教師の見取り

【導入】◎前日の遊びの振り返り



写真 11

☆「ふわふわ発見した。」「ふわふわでわたあめ作りたい。」
「牛乳パックとか画用紙を水の中でこすったら、水がネバつとした。」
白い繊維を思い出し、「ほわほわしていた」と話す子もいた。
◎「なににもなかった」と話す子。
⇒友達の話聞いて、遊びを思い出し、発見したことを話していた。

【展開1】試したり工夫したりして、自分なりにじっくり取り組む。
～ふわふわを作ろう。～

☆ペットボトルを使う。

◎ペットボトルが重く、大きかったため、振りにくいことに気づき、
2つの容器に分けて、振りやすいよう工夫していた。



写真 12

ちょっと重いなあ
二つに分けよう



写真 13

ふわふわできたかな～

◎友達遊びの様子を見て、自分の手に持ちやすい大きさのペットボトルを探して使っていた。また、たくさん振ると、ふわふわがいっぱい出てくることに気付いた。



写真 14

◇今日の遊びのめあてや遊びのイメージを共有できるよう、前回の遊びの様子を知らせたり、時間を置いたりして、発見したことや前回の遊びを思い起こせるようにした。

◇幼児の言葉から、これまでの遊びの中で、さまざまなことを発見していることがわかった。

◇昨日の遊びの様子を伝えたり、友達の話の聞いたりして今日の遊びが楽しくなるように意識した。

◇一人一人の発想や取り組んでいる姿を認める言葉かけをした。

◇遊びの発展に必要な道具や用具に気付かせていく。

◇「ふわふわ」ができているかを光に透かして確かめる姿が見られた。

◇遊びに必要な道具を自分で探して使う姿や友達のやっている様子を見て、遊びに取り組む姿が見られた。

◎幼児の姿	☆幼児の発見	○教師の援助◇教師の見取り
◎大きなすり鉢や小さなすり鉢を使う。 ☆発見：すり鉢で牛乳パックをこすったことで、水にとろみが出てきた。  納豆みたい。 紙が大きくて混ぜにくいな。小さくしよう。 写真 15	 写真 16	◇友達遊びを見て、自分もやってみたいと意欲が高まり、取り組む姿が見られた。 ◇濡れた道具などを持って歩くときには、手を添え、床が濡れないように気を付けている子もいた。 ◇絵本「ねばねばなっとう」の影響から、「ネバネバ」などの言葉がでてきた。 ◇すりこぎを水に浸けたり、離したりして粘りがあるかを確かめていた。
【展開 2】友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ◎友達を誘って、遊びに必要なものを探したり、相談したりして、遊びに取り組む姿があった。  透明の（容器）のほうがいいんじゃない？ 豆腐のパックも使ってみよう 写真 17	お水はどれくらいいれようか？  赤い線まででいいよ 写真 18	他にも、網じゃくしで、素材と水をすくい上げ、流れる水を見て、とろみがあるか、確かめる姿が見られた。 ◇「ふわふわ」を取り出す方法を友達と考える姿が見られた。 ◇使ってみたい道具や用具を探し、自分なりに取り組んでいた。 ○一人では遊びを進めることが難しいときには、友達に協力を求めることができるように援助した。
◎「押し紙」を作って遊ぶ。押し紙の作り方を友達に教える姿もあった。  写真 19	 写真 20 小さな押し紙見つけたよー  写真 21	◇友達とのかかわる中で、友達の考えを受け入れて、遊ぶ姿が見られた。 ◇遊びを発展させていくときには、様々な容器や道具、言葉を使って、遊びを楽しむ姿が見られた。 ◇自分の思いを通そうとする子もいたが、自分の思いを通そうとするだけでは、遊びが楽しくならないことに気づき、自分の気持ちに折り合いをつけ、遊びに参加する姿も見られた。
◎「ふわふわ」を取り出す。 ☆ままごとコーナーにあったザルと空き容器を敷き、水とふわふわを分けて取り出せるようにしていた。	 写真 22	◇布についた小さな押し紙を大切に集め、窓ガラスに貼り、乾かす姿から、物を大切にしようとする気持ちが芽生えていると感じる。

◎幼児の姿	☆幼児の発見	○教師の援助◇教師の見取り
◎次第に、押し紙を作る子、窓ガラスに貼る子、渡す子、などの役割がでてきた。  写真 23 【まとめ】遊びの振り返り  写真 24 ◎楽しかったこと・発見したことなどを話す。 ・すり鉢で素材をこすった子 「ゴリゴリしたことが楽しかった」と道具や用具を使って遊んだことを話していた。また、その話を聞き、「ゴリゴリしているのを見ていたら、小さいふわふわがいっぱいあった。」「見た!」と話しに加わる幼児の姿も見られた。 ・水にとろみがあったことに気付いた子は、「納豆みたいな糸がでてきた」と話していた。それを聞き、「オクラみたいな!」と思わず口にする姿も見られた。 ・身近な素材を空き容器に詰めて遊んでいた子からは、「ごはん、作った」と話し、作るときにも空き容器の隙間から、水を出し、ご飯のように固められるように工夫したことも話していた。 ・初めは一人で遊んでいたが、遊びの後半のときには、みんなと一緒に遊びを進めた子からは、「窓ガラスに押し紙を貼ったことが楽しかった。」という声が出た。		○遊びを安全に楽しく進めていけるよう、テーブルや床が濡れていることに気付かせ、ときには具体的に言葉で示し、活動を促した。 ◇テーブルからこぼれていることに気付く、雑巾で拭こうとする子が多くなった。その方法以外にも、こぼれて流れている水をペットボトルやタライで受け止めるなど考えを出し合う姿も見られた。 ○それぞれが工夫していたことを引き出す言葉かけをし、一人一人の発見や気づきを学級で共有できるようにしていく。 ○幼児なりに考えたことや工夫したところなどを認め、褒めることで、遊びへの意欲をさらに高められるようにした。 ◇遊びの様子を捉え、思い起こせるようにしたことで、それぞれの気づきや発見したこと、工夫したことなどを自分なりに話す姿が見られた。
【第10時】  写真 25	◎ウェルカムボードを作る。 ◎大きな紙を友達と力を合わせて作る子。材料をもってくる子などに分かれて活動した。	○取り組んでいることや頑張っていることなどを話し合えるようにした。 ○学級の一員として、同じ目的に向かって協力することや自分の考えなどを発揮できるようにする。

【環境の構成】

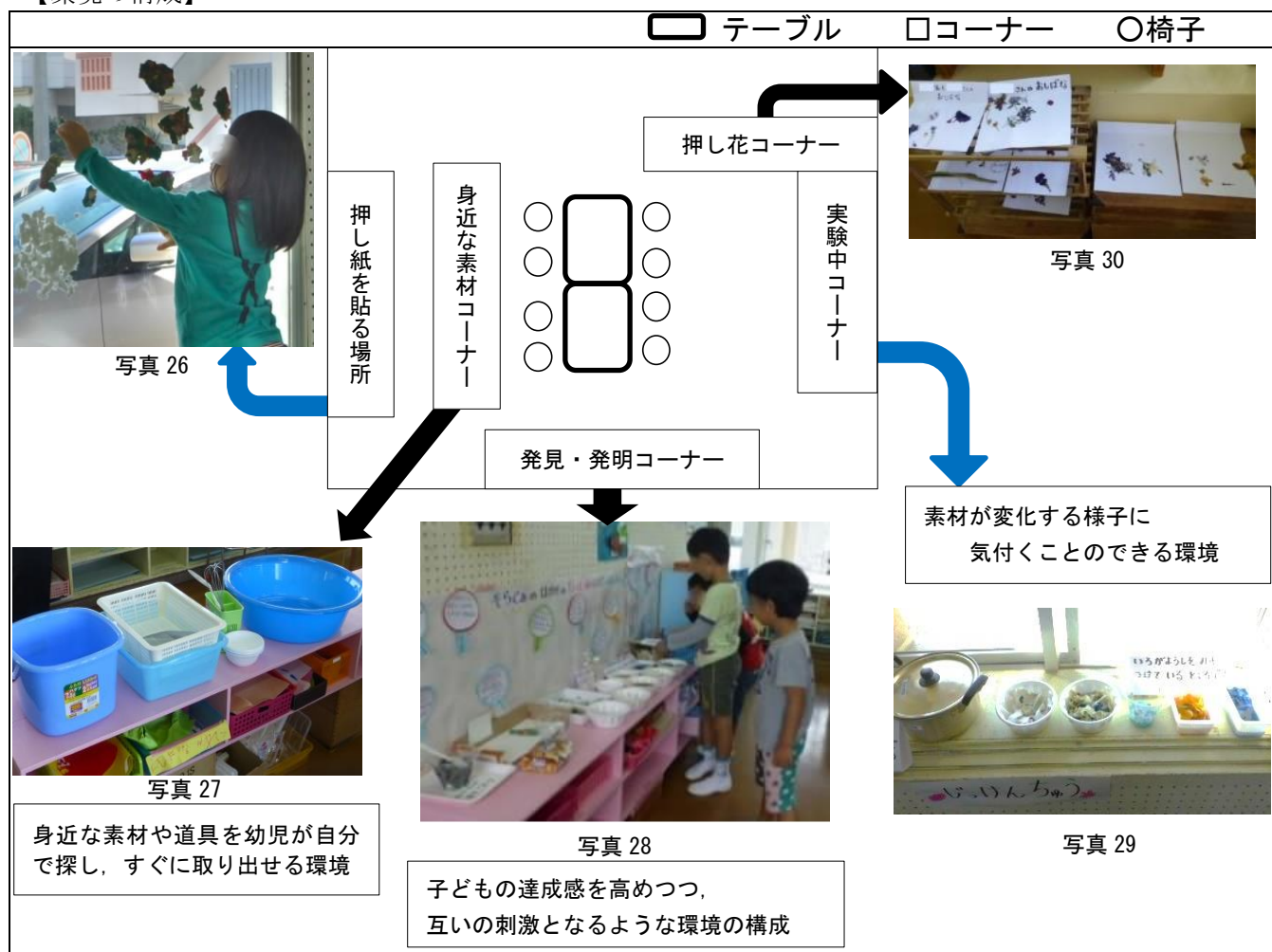


図 1

6 公開検証保育の考察

活動仮説

身近な素材を使って遊ぶ場において、友達と一緒に遊び、考えたり工夫したりして、関心を深めていくことで、物とかかわって遊ぶ楽しさが味わえるようになるだろう。

(1) 良かった点

- ① 環境構成の工夫やじっくり取り組む時間を確保したことで、自分なりに工夫したり、考えたりして意欲的に活動する姿がみられた。
- ② 遊びの前半には、一人でじっくりとかかわる姿がみられたが、活動後半になると、作ったものを渡したり、貼ったりする役割に分かれて活動する姿も見られた。
- ③ 一人では難しいことにも幼児同士をつなぐ援助をすることで、互いに思いを出し合い、工夫したりして遊びを進める姿が見られた。

(2) 工夫すべき点

- ① 子ども一人一人が気付いたり、頑張ったりしていることを喜んで話す姿が見られた。しかし、一人一人に丁寧に向き合っていくことができなかったと感じる。幼児に寄り添った発問の仕方などを工夫していく。
- ② 安全面での配慮が足りなかったため、環境構成の見直しが必要だと感じた。
- ③ 言葉かけが少なく、具体的ではなかったと感じる。今後は、幼児の発想を次の活動へつなぐ言葉かけや思考が深まるような言葉かけを工夫する必要がある。

VIII 仮説の検証

本研究では、身近な素材とじっくりかかわる遊びをすることで、幼児が興味をもって環境にかかわり、自分なりに試したり工夫したりして友達と遊びを進めていけるよう、環境の構成の工夫と教師の援助を行っていった。活動の様子、発言内容、保護者の事前事後アンケートなどから、身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、自分なりに探究する態度がはぐくまれたかどうかを検証する。

1 具体仮説（1）の検証

身近な素材に触れる場において、幼児の好奇心が高まるような環境の構成を工夫することで、自分なりに考え、発見することを楽しむようになり、身近な環境に興味をもってかかわるようになるであろう。

(1) 身近な素材に触れる遊び

自分なりにじっくり考えることや発見する楽しさを味わうことができるよう、新聞紙や牛乳パックなどの身近な素材や園庭の草花など、自然環境を使って幼児の身近にある環境にかかわる遊びを設定した。破く、裂く、ちぎるなどして身近な素材にかかわる中で、素材のもつ特性に気が付き、「こっちは固くて切れない。」「線が入っているところから切ってみて、やりやすい」など、幼児なりに気付いたことや発見したことなどを友達や教師に話していた。また、身近な素材を水に浸けたことで、素材が柔らかくなることや一枚の紙だと思っていたものが、層になっていることに気付く姿も見られた。気温の低い日には、服装や朝の水の冷たさなどから季節の移り変わりを感じられるようにし、湯を使うことで、水と湯のどちらが素材を柔らかくするのが早いかを試した。子どもたちからは「お湯に浸けたら、牛乳パックがクニャってなった。」「水に浸けてる牛乳パックは、少ししか柔らかくないね。」「(水に浸けた牛乳パックは)昨日とあんまり変わらないよ」などの声上がり、違いに興味をもつ姿が見られた。

(2) 幼児の好奇心が高まるような環境の構成について

遊びの中で、水やお湯に素材をつけたり、かき混ぜたりしたことから、子どもたちの中で「実験みたいだね」という声が上がった。そこで、「やぎのはかせのだいはつめい」という絵本の読み聞かせをし、発見することを楽しめるよう、「実験コーナー」や「発見・発明コーナー」を設定した。

「実験コーナー」として、友達の取り組んでいる遊びや実験中の遊びを他の幼児の目に触れやすい場所に置き、自分の見たい時、気になった時にいつでもかかわれるようにした。そうすることで、素材が変化していく様子や素材の感触を直接確かめられるようになり、子どもたちからは、「もふもふしているよ」「昨日とはちょっと違うよ」などと話す姿が見られた。

「発見コーナー」では、発見したことや気付いたことなどを虫眼鏡の絵の中に記入していき、「○○はかせ」として壁面に掲示したことで、「あ！私の発見が書かれている」「○○さん、かき氷を発明したんだね」と話す姿が見られ、自分の発見が認められる場や友達の発見に気付くことのできる場所になった。

発見・発明コーナーや実験コーナーを設定したことで、幼児は友達の考えに触れ、自分の遊びに取り入れ、繰り返し遊ぶことを楽しむ姿が見られた。幼児は、遊びの中だけで、博士になるのではなく、テーブルから水がこぼれたときなど、布巾で拭くだけでなく、「身近な素材コーナー」から、ペットボトルやタライをもってきて水を受け止めようと工夫し、生活の中でも博士になる姿が見られた。遊びを進めていく中で、トンゴやお玉などのままごと道具を使い、素材とかかわるようになった。以前は困ったことがあると教師に答えを求めることが多かったが、遊びに必要なと思われる道具や用具を探しやすいようにし、気が付きを促す援助をすることで、自分で探して遊ぶ姿が多く見られたため、幼児は身近な環境に興味をもってかかわるようになったと考えられる。

2 具体仮説（２）の検証

友達と一緒に試したり、工夫したりする遊びの場において、友達の考えに気付き、遊びを進める楽しさを味わえるような援助の工夫をすることで、物とのかかわりを楽しむ姿や自分なりに探究する態度をはぐくむことができるであろう。

具体仮説（２）については、自分なりに探究する態度がはぐくまれるよう、友達の考えに触れられる環境の構成や遊びの中で幼児同士をつなぐ援助をしたことで変容した幼児の姿や保護者アンケートの分析などから検証する。

(1) 導入と遊びの振り返りをする場において

導入においては、遊びのイメージを共有できるよう、前回の遊びを想起させた。幼児の「ふわふわ発見した。」「水がネバっとした。」などの言葉から、物とのかかわりを楽しんでいる様子が見られた。遊びの振り返りの場においては、「ご飯作った。」と発表する幼児に、工夫していたことを思い起こさせる言葉かけをしたことで、「二つ合わせて、空いてるところから水をだしたら、固くなった。」など、自分なりに工夫したことを話す姿が見られ、幼児の遊びへの意欲が高まったと思われる。

(2) 遊びの中での援助の工夫

① 幼児同士をつなぐ援助

幼児が取り組んでいる姿を認め、周囲に取り組んでいる様子を知らせていくことで、友達の遊びに興味をもたせられるようにした。初めは一人遊びが多かったが、遊びを進めていくうちに、友達の作ったものを見て、「どうやって作ったの?」と作り方を聞き、自分もやってみたいという意欲を見せる姿も見られた。また、遊びを教えたり、考えを出し合ったりして幼児同士でかかわる姿も見られた。幼児同士のかかわりを促し、「押し紙」作りで、個から学級全体の活動へと遊びをつなげたことで、互いのイメージを共有し合いながら遊びを進めていく姿も見られた。

水を扱う遊びであったことから、遊びを楽しく進めていくために、場所を整えていくことや安全面への配慮が必要であった。幼児自身がその必要性を感じることができるよう、遊びの中で幼児の考えに寄り添うことで、テーブルや床が濡れたときには、「濡れてるところ、みつけた。」と進んでテーブルや床を拭くようになった。また、雑巾をもってくる子を待つ間、こぼれる水をペットボトルやタライで受け止め、床が濡れないように友達と工夫する姿も見られた。遊びの中だけでなく、生活の中にも幼児が博士になりきっている姿を見られたことから、物とのかかわりを楽しみ、自分なりに探究する態度がはぐくまれていったのではないかと考える。

② 幼児と物をつなぐ援助

身近な素材や子どもたちに親しみのある教材や教具を用意し、手に取りやすいようにしたことで、遊びが発展し、幼児からは、「１枚の紙と思ってたら３枚の紙だった。」「おれのは、２枚だよ」「画用紙から色水が出てきた。」「ヌルヌルするよ。」「新聞紙は、変なおいがするね。」「ホワホワ（柔らかい様子をあらわす言葉）して気持ちいい」と、素材の性質や仕組みに気付く姿が見られた。実験を進めていく中で、子どもたちは博士になりきって、いろいろな素材で試し、「押し紙」遊びへと発展していった。このことから、身近な素材にかかわる遊びにより、幼児の好奇心が高まったと考えられる。

(3) A児の変容

初めての遊びに抵抗感をもつことがあったA児は、友達の取り組んでいる様子を見ることを遊びに参加する姿として捉え、友達の遊びに興味をもたせ、遊びにかかわれる方法を一緒に探すなどして、教師も遊びに参加した。友達が実験している素材をおそろおそろ触るなどして、遊びに参加していたが、ペットボトルを使ったことで、「牛乳パックと水をペットボトルで振ったら、ふわふわができた。」と素材が変化する様子を自分なりに楽しめるようになった。

(4) 事後アンケートから幼児の変容を見取る

事後アンケートから、園で経験したことを家庭でも行っていると回答している幼児が９名おり、残りの１名からは、「活用する姿は見られないが、以前に比べ、園での様子を話してくれます。」との回答があり、園での活動が充実していると捉えることができる。また、B児においては、「テーブル拭きが以前よりも上手になった。」との回答もあり、成長を感じている回答もあったことから、園での体験が家庭で活用されていると感じる姿が見られた。

Ⅸ 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 理論研究をし、幼稚園教育要領領域「環境」の捉えを明確にしたことで、目指す幼児像につながる手立てを見出すことができた。
- (2) 身近な素材にかかわる遊びの場において、意図的・計画的に幼児の好奇心や探究心が高まるような環境の構成を工夫したことで、幼児は興味をもって遊びにかかわり、発見することを楽しむようになった。
- (3) 遊びの中で、物にかかわる面白さや不思議さに気付かせ、幼児同士をつなぐ援助をすることで、互いの考えに触れ、遊びに取り入れるなど活用する姿が見られた。
- (4) 年間指導計画を作成することで、幼児の発達やジブンナーな子をはぐくむ長期的な見通しをもつことができた。

2 課題

- (1) 幼児一人一人の言葉を受け止め、良さを認めていくことが十分ではなかったと感じることから、幼児の個々の育ちを理解し、遊びの見通しをもって取り組めるようにしていく。
- (2) 身近な素材で遊ぶ中で、幼児の思考が深まるような言葉かけに不十分だった。今後は、物や友達とのかかわりを深めることができるよう、次の活動につなぐ発問の仕方を工夫していきたい。
- (3) 遊びの段階や発達に応じた、安全面や健康面への配慮を年間を通して考えていく必要がある。

<主な参考文献・引用文献>

- ・文部科学省 平成 20 年 10 月 「幼稚園教育要領解説」
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 26 年 11 月 「環境教育指導資料」
- ・田尻由美子，無藤隆 編著 2012 「保育内容子どもと環境―基本と実践事例―」 同文書院
- ・滝沢武久 2011 「ピアジェ理論から見た思考の発達と心の教育」 幼年教育出版
- ・神長美津子，岩立京子 2009 「新幼稚園教育要領の展開」 明治図書